

一般社団法人 ヘルスケア・データサイエンス研究所

研究助成 成果 **概要** 報告書

(成果・概要のいずれかに○をつけてください)

助成年度	2024 年度
本研究期間	2024 年 12 月 1 日～2025 年 7 月 31 日
氏名	中畑 みさき
所属機関名 (助成決定時)	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 薬剤疫学分野
職位・学位	博士課程 4 年
研究タイトル	非妊娠若年女性における貧血の実態に関する研究：JMDC 保険者データベースを用いたリアルワールドデータベース 研究
キーワード	若年女性、リプロダクティブエイジ、貧血、低栄養、健診、 クレームデータ
研究概要	近年、我が国の 20 代女性の 5 人に 1 人が低体重ということが明らかとなっており（令和 4 年度 国民健康栄養調査結果の概要）、若年女性の栄養状態が懸念されている。しかし、若年女性は、月経による損失などのため、体重は正常範囲

内であっても栄養不足に陥りやすい。よって、栄養状態を評価するには、体重と併せて貧血の状況も評価する必要があると考える。

貧血とは、赤血球に含まれる血色素であるヘモグロビン(Hb)により、定義される。非妊娠時の若年女性の場合、Hb <12.0g/dL であると(鉄剤の適正使用による貧血治療指針 改訂 第3版：日本鉄バイオサイエンス学会 編)、健康状態の悪化、感染症の罹患率と死亡率の上昇、さらに出産した場合は、出生児においても多大な健康上および経済的コストを伴う(Gardner, W., et al Current Developments in Nutrition 2020)。世界的にも約20%が罹患していると考えられる、広く蔓延している健康問題である。貧血の改善には1~2か月を要することから、妊孕性の高い若年女性においては、妊娠前からの貧血予防が重要であるが、非妊娠女性の貧血の有病割合については明らかとなっていない。

また、貧血の主な原因は、月経血による損失、子宮または消化管からの出血である(Kassebaum NJ, et al. Blood. 2014)。

さらに、食事からの鉄の吸収不良または食事の鉄不足も、

貧血の一般的な原因として増加しており (Benson CS, et al. Anaesthesia. 2021)、若年女性は、基礎疾患等がなくても、発症しやすい状態であると言える。

そこで本研究では、基礎疾患を持たない非妊娠時の女性における貧血の実態把握と要因探索を目的とし、健診データとレセプトデータが統合された JMDC 保険者データベースを活用し、18~39 歳の女性における健診での貧血の有病割合と要因との関連を評価する。特に、健診による貧血の診断以前に、貧血を引き起こす可能性のある慢性腎疾患、がん、炎症性腸疾患などの疾患を除き、健康と考えられる集団における貧血の有病患者を抽出した上で、関連している要因を評価する。これにより、非妊娠時に貧血を起こしており、妊娠中に貧血発症リスクの高い集団の特定を行いたい。